

看護管理者を対象とした看護情報教育の現状と課題

Current status and issues of nursing information education for nursing managers

高尾美香¹⁾・富樫千秋¹⁾

Mika TAKAO and Chiaki TOGASHI

看護管理者はデータを活用し、看護の可視化、質の向上に向けて取り組むことが望まれている。過去10年間の文献に絞り看護管理者に対する看護情報教育の現状を明らかにし、今後の課題を検討した。対象文献は医学中央雑誌 Web 版を用いて検索を行った。看護管理者を対象とした看護情報教育は、現在認定看護管理者研修が貴重な教育の機会となっている。今後の課題として教育を受ける者の背景やコンピュータリテラシー能力を考慮して、情報教育のプログラムを検討すること、各施設で院内の看護情報の専門家を活用した情報教育を受けるシステムづくりが課題であることが示唆された。

I. はじめに

厚生労働省により、医療分野の情報化が推進され、2017年400床以上の病院の電子カルテ普及率は85.4%である¹⁾。2015年7月に2年間の試行事業を経て日本看護協会の労働と看護の質向上のためのデータベース(DiNQL)事業が本格実施となった。DiNQLはドナベディアンが提唱した医療の質評価の枠組みである構造(ストラクチャー)・過程(プロセス)・結果(アウトカム)の側面から、労働と看護の質データ項目が設定され、電子カルテの導入が進むことで可視化することが可能となった。

連絡先：高尾美香 nm21n02@cis.ac.jp

¹⁾ 千葉科学大学看護学研究科

Graduate School of Nursing, Chiba Institute of Science (2021年9月28日受付, 2022年1月25日受理)

2020年度では、この事業の参加病院数は431病院4258病棟となっている²⁾。ITシステムは日々進歩しており、福井らによって標準医療への準拠の程度によって測定されるとするQuality Indicator(質指標)の測定・公開も行われている³⁾。

このような社会背景の中、看護業務において情報に関する教育の必要性が高まっている。特に看護管理者はデータを活用し、看護の可視化、質の向上に向けて取り組むことが望まれている。

日本では科目としては明確に位置付けられていないが、米国看護師協会(ANA)では看護情報学を看護のなかのひとつの専門領域として位置づけ、看護情報学とは「看護実践におけるデータ、情報、知識および知恵を特定し、定義し、管理し、コミュニケーションするために、看護学と多様な情報処理関連の科学を統合する専門分野」と定義している。

看護師に求められる看護情報学の知識と能力はコンピュータリテラシー、情報リテラシー、専門性の開発とリーダーシップが示されている⁴⁾。

2018年に菖蒲澤⁵⁾は2007年から2018年の看護管理者に対する看護情報教育または研修の過去10年の文献検討と基礎看護教育用の看護管理学テキストの“情報管理”に関する目次の記載内容の分類を行っている。結果、看護部長相当の看護管理者は情報の知識を持った看護師には情報システムの開発時の開発業者との仲介役や、スタッフ教育、業務量の測定やデータの二次利用を期待していること、eラーニングの知名度は高いが施設へのeラーニングシステムの導入が少なかったことを報告している。しかしながら、看護管理者を対象とした看護情報教育の現状や課題を明らかにした研究は見当たらなかった。

そこで、IT化が増々進む社会情勢を踏まえ過去10年間の文献に絞り看護管理者に対する看護情報教育の現状を明らかにし、今後の課題を検討したいと考えた。

II. 目的

過去10年間の看護管理者に対する看護情報教育の現状を明らかにし、今後の課題を検討する。

III. 方法

対象文献は医学中央雑誌 Web版を用い「看護管理者」「看護情報」「教育」または「看護管理者」「看護情報」「研修」で検索し、検索期間を2011～2021年、看護文献、原著論文で絞込を行った。

「看護管理者」「看護情報」「教育」では6件「看護管理者」「看護情報」「研修」では2件が抽出された。今回、重複を除く5件を対象文献とした。

IV. 用語の定義

看護情報教育とはコンピュータリテラシー、情報リテラシー、専門性の開発とリーダーシップを含む教育である。

V. 結果

文献調査の結果を表1に示した。

2011年に1件、2012年に1件、2014年に1件、2016年に1件、2018年に1件の文献が抽出された。

認定看護管理者ファースト研修参加者を対象に質問紙調査したものが4件あった。文献No.1では「看護研究の概要」は70%が卒後教育や院外セミナーで受講し「統計学」や「データ分析」「研究の指導」については「全く教育を受けたことがない」者が約49%であり、研究が得意だと「思わない」「あまり思わない」を合わせて90%と高率だったと報告している⁶⁾。文献No.2では情報活用の実践力尺度の収集力について検討し、学歴が看護短大・大学卒業と比較して看護専門学校卒業者、電子カルテが導入されている者、ソーシャルメディア利用者、情報教育の教育歴がある者、スマートフォン所有者は情報活用の実践力尺度の収集力が変化したと回答したと報告している⁷⁾。文献No.3では、受講者はほぼ独学に近い状態で高いコンピュータリテラシー能力を身につけ、講義を受けたことで変化したと回答が多かった情報活用の実践力は収集力と表現力、変化が少なかったのは、創造力、伝達力であったことを報告している⁸⁾。文献No.5では情報教育を受けた経験については7割から8割のものは受けていないことがわかった。一方、2010年には中学校で情報教育を受けた者が存在し、電子カルテシステムの導入は増加しており職場の情報専門家は増加していることを報告している⁹⁾。文献No.4では中間看護管理者8名に対して半構成的面接を行い、質的帰納的に分析を行った。参加者の困難な課題には【不透明な役割範囲】【複雑多様な関係調整】【暗中模索の人材育成】【大量情報の咀嚼と浸透】【過重な役割と責任】【不十分な支援体制】があり、そのことにより『判断に確信がもてない』という困難な課題の本質が明らかになったと報告している¹⁰⁾。

表 1 看護管理者を対象とした看護情報教育の文献一覧

文献 No	対象と方法	目的	結果	出典
1	認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講者 105 名に対する質問紙調査	臨床看護師が臨床看護研究の指導者となるための教育システムを提案する	100 名の有効回答を対象とし「看護研究の概要」は 70%が卒後教育や院外セミナーで受講し「統計学」や「データ分析」「研究の指導」については「全く教育を受けたことがない」と回答した者が 49%であった。研究が得意だと「思わない」「あまり思わない」を合わせて 90%と高率だった。	石垣ら ⁵⁾ (2018)
2	認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講者 564 名に対する質問紙調査	認定看護管理者研修ファーストレベルの研修効果に影響を与える属性の特徴を明らかにする	340 名の有効回答を対象とし、情報活用の実践力尺度の収集力について検討した。学歴が看護短大・大学卒業と比較して看護専門学校卒業生、電子カルテが導入されている者、ソーシャルメディア利用者、情報教育の教育歴がある者、スマートフォンの所有者は情報活用の実践力尺度の収集力が変化したと回答した。	野村ら ⁶⁾ (2016)
3	認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講者 428 名に対する質問紙調査	認定看護管理者研修ファーストレベルの教育効果を測定し教育効果を考察する	受講者はほぼ独学に近い状態で高いコンピュータリテラシー能力を身につけていた。講義を受けたことで変化したと回答が多かった情報活用の実践力は収集力と表現力、変化が少なかったのは、創造力、伝達力であった。	野村ら ⁷⁾ (2014)
4	6 つの一般病院の中間看護管理者 8 名に対して半構成的面接を行い質的帰納的に分析	新任の中間看護管理者が、どのような困難な課題に直面し、解決のためにどのような支援を望んでいるのかを明らかにする	新任の中間看護管理者の困難な課題には【不透明な役割範囲】【複雑多様な関係調整】【暗中模索の人材育成】【大量情報の咀嚼と浸透】【過重な役割と責任】【不十分な支援体制】があり、そのことにより『判断に確信がもてない』という困難な課題の本質が明らかにされた。	吉川ら ⁹⁾ (2012)
5	2004 年から 2010 年までの 7 年間の認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講者 1077 名に対する質問紙調査	看護管理者等が置かれている情報化の環境（電子カルテの導入）やコンピュータ苦手意識などの実態を把握し、研修内容を検討する	回収率 89.9% 情報教育を受けた経験については 7 割から 8 割のものは受けていないことがわかった。2010 年には中学校で情報教育を受けた者も出てきている。電子カルテシステムの導入は増加しており、職場の情報専門家は増加している。	真嶋 ⁸⁾ (2011)

VI. 考察

公益社団法人日本看護協会における認定看護管理者規程では、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指している。一定の基準に基づいた看護管理者を育成する体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目的とされ、認定看護管理者に必要な教育課程を、ファーストレベル、セカンドレベル及びサードレベルの3課程と定めている¹¹⁾。認定看護管理者研修ファーストレベルでは、看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得することを教育目標に105時間の授業が行われている。資源管理Ⅰの中の看護実践における情報管理として授業時間15時間中に医療・看護情報の種類と特徴、情報管理における倫理的課題(情報リテラシー)が充てられている¹²⁾。

文献No.1では、「統計学」や「データ分析」「研究の指導」については「全く教育を受けたことがない」者が約49%であることが明らかになっている。その一方で、認定看護管理者研修に受講した者の研修効果の研究結果をみると、文献No.2で学歴が看護短大・大学卒業と比較して看護専門学校卒業者や電子カルテ導入されている者、情報教育の教育暦がある者の情報活用の実践力尺度における収集力の変化があったことが明らかになっている。また、文献No.3で受講者はほぼ独学に近い状態で高いコンピュータリテラシー能力を身につけていたとの報告がある。さらに、文献No.5では情報教育を受けた経験については7割から8割のものは受けていないことが明らかになっている。

これらのことから、認定看護管理者研修においては、情報教育は重要であるが、受講する対象者の背景やコンピュータリテラシー能力を考慮して、受講者の状況に応じた複数の情報管理のプログラ

ムを準備することが課題であると考えられる。

文献No.1では、「看護研究の概要」は70%が卒業後教育や院外セミナーで受講している現状が明らかになっている。看護者の倫理綱領¹³⁾の「看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する」とあり、看護研究指導者となることが多い看護管理者が看護研究については多くのものが学んでいる現状が伺える。

文献No.5には、2010年には中学校で情報教育を受けた者が存在することが明らかになっている。2019年現在、総務省のICTサービスの利用動向¹⁴⁾から、2019年における世帯の情報通信機器の保有状況をみると「スマートフォン」は83.4%となり初めて8割を超えた。「パソコン」は69.1%、であり、ICTに日常的に触れる機会が増えている。今後看護基礎教育でもICT教育が進んでいくと考えられる。教育を受けた時期も考慮して情報教育の内容を検討していく必要がある。

文献No.3で講義を受けたことで変化があったと回答の多くあった情報活用の実践力は、収集力と表現力であり、少なかったのは、創造力、伝達力であったことを報告している。文献No.2と文献No.3で用いられている高比良ら¹⁵⁾は収集力を目的に応じて、必要な情報をもれなく、適切な手段で主体的に収集する能力とし、表現力は情報の表現方法に注意し、情報を適切な形式で整理、表現する能力、創造力は自分の考えや意見を持ち、情報を創造する能力、発信・伝達力は受け手の立場や、情報を処理する能力を意識して情報を発信・伝達する能力としている。認定看護管理者研修では、主体的に必要な情報の収集を行い、その情報を適切に利用することに有効であると評価できる。しかし、自らの考えや主張を持ち、情報発信していく力の育成は課題を残している。

看護管理者を対象とした情報教育で養いにくい

能力に、創造力と伝達力がある。これらは看護管理者が意識して OJT で養っていく力であると考えられる。

文献 No. 4 では中間看護管理者 8 名に対して半構成的面接を行い、質的帰納的に分析を行っている。参加者の困難な課題として明らかになったものは【大量情報の咀嚼と浸透】であった。これは、中間管理職の情報教育の課題を浮き彫りにしている。中間管理職に対しては、大量情報の咀嚼ができるように職場で支援していく必要があると考える。

文献 No. 5 では、職場の情報専門家は増加していると報告があった。病院においては電子カルテの導入が進み看護情報の専門家の必要性が高まり、今後看護情報の専門家を置く病院が増えると考えられる。病院内の看護情報の専門家を活用し、中間管理職が大量の情報を咀嚼するための看護情報教育を受けるシステムづくりが各施設に求められている。

VII. 結論

現在の看護管理者を対象とした看護情報教育は認定看護管理者研修が貴重な教育の機会となっている。今後の課題として教育を受ける者の背景やコンピュータリテラシー能力を考慮して、看護情報教育のプログラムを検討する必要があること、各施設で院内の看護情報の専門家を活用し、看護情報教育を受けるシステムづくりが必要であることが示唆された。

引用文献

- 1) 厚生労働省：医療分野の情報化の推進について，2021.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu_johoka/index.html
 (参照 2021年9月20日)
- 2) 日本看護協会：労働と看護の質向上のためのデータベース (DiNQL) 事業，2021.
<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/datab>

- ase/index.html (参照 2021年9月20日)
- 3) 福井次矢 嶋田元：Quality Indicator, 「医療の質を測り改善する」, (株) インターメディカ. 2020.
- 4) 太田勝正・前田樹海：エッセンシャル看護情報学 第3版 (株) 医歯薬出版. 2020.
- 5) 菖蒲澤幸子：わが国の看護管理者への看護情報教育に関する文献の考察. 医療情報学連合大会論文集 38 回, 1052-1055, 2018.
- 6) 石垣恭子・高見美樹・小村晃子他：臨床看護研究における看護情報を活用するための継続教育システムの検討. 日本医療情報学会看護学術大会論文集 19 回, 147-148, 2018
- 7) 野村優子・山内一史・宇都由美子他：認定看護管理者研修の受講生の背景が情報活用の実践力に及ぼす影響について. 日本医療情報学会看護学術大会論文集 17 回, 101-104, 2016.
- 8) 野村優子・酒井喜久子・石井香奈子他：認定看護管理者研修ファーストレベルにおける看護情報教育の評価. 日本医療情報学会看護学術大会論文集 15 回, 129-130, 2014.
- 9) 真嶋由貴恵：看護管理者における情報化環境やコンピュータ苦手意識等の経年変化 認定看護管理者制度教育課程対象者への実態調査から. 日本医療情報学会看護学術大会論文集 12 回, 18-21, 2011.
- 10) 吉川三枝子・関根聡子・高橋由紀他：新任の中間看護管理者が認識する役割遂行上の困難と必要とする支援. 茨城県立医療大学紀要, 17, 1-10, 2012.
- 11) 日本看護協会：公益社団法人日本看護協会 認定看護管理者規程, 2018.
<https://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2018/04/CNAkitei201804.pdf>
 (参照 2021年9月20日)
- 12) 日本看護協会：認定看護管理者カリキュラム 基準【ファーストレベル】，2018.
<https://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content>

/uploads/2021/04/CNA_kyoikukikan_yoko2021_san
ko2.pdf (参照 2021年9月20日)

- 13) 日本看護協会：看護職の倫理綱領，2021.

[https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/
rinri/code_of_ethics.pdf](https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code_of_ethics.pdf)

(参照 2021年9月20日)

- 14) 総務省：情報通信機器の保有状況，2020.

[https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/white
paper/ja/r02/html/nd252110.html](https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/html/nd252110.html)

(参照 2021年9月20日)

- 15) 高比良美詠子・坂元章・森津太子他：情報活用の実践力尺度の作成と信頼性および妥当性の検討. 日本教育工学雑誌, 224 (4), 247-256, 2001